

神奈川山梨教会連合会たより

## かりん

## インタビューシリーズ【向き合う】

第二回（前半）

平塚教会信徒 宇佐美陽子さん



昭和五十五年生まれ。平塚教会現教会長奥川美智雄先生・美登子先生のご長女。相模女子大学学芸学部英米文学科卒。現在は企業の人材研修等の講師などを受けるフリーランスとして仕事しつつ、高校生の娘と中学生の息子を育てるシングルマザー。

○奥川先生に「インタビュー誰かい方がいいですかね？」と話したところ、「うちの娘、色々やっていて面白いよ」と教えていただき、今回インタビューさせていただく

ことになりました、ありがとうございます。ラジオのDJをされていたと伺いましたが、どういった経緯があったのでしょうか。

陽子さん（以下陽）…元々はアナウンサーの職に就きたいと思い、大学在学中から各放送局へ就活をしていたのですが、自分に向いていないと感じたので、自分の言葉で表現できると感じたラジオDJを目指すことにしました。卒業後一年ほど全国のオーデションを受けたところ、仙台の放送局で受かりましたので、宮城県に引っ越して、業務委託という形で始めました。

○仙台でDJをどれくらいされていましたか。

陽…五年ほどしていました。夕方や夜帯が主でした。

○ラジオ聞いていると、DJの耳障りの良い声に感心します。

陽…皆さんいい声されてますよね。私は自分の声にあまり自信がなかったので、どうしたらマイクのりのよい声になるかなど、すごく研究しました。ラジオはまさに音だけの媒体で、私を指導してくれていた人からは「DJの一言で、誰かの人生を左右するくらい、影響力のあるツール。だから常に勉強して、様々な立場・状況の人の気持ちを理解する様にしないと、いいラジオは出来ないよ。」ということも教わりました。

○声や発声だけではなく、自分の生き方という感じですね。

生き方、当日の体調など、全部出るのです。

○仙台でされた後はどうされてましたか。

陽…その後、大阪のラジオからも声がかかったのですが、半年ほど大阪でしていたのですが、結婚して子どもを授かりましたので、一時休止させていただきました。

○お相手はお仕事関係の方ですか。

陽…いえ、全然関係ない人で。引っ越した先のマンションで交流会があり、そこで出会った同じマンションに住む人です。

○…すごいですね…！そんな出会いがあるのですね。

陽…出会いは割とドラマチックだったのですけどね。結婚して八年後には離婚しまして、平塚に戻ってきました。上の子が小二、下の子が年長さんでした。

○ご両親から何か言われたりしましたか。

陽…両親は昔から、ああしろこうしろとは言いませんでした。私は自分で考えて動きたいタイプなので、救われる気持ちで。でも必ず最後に「お願いしているからね」と言ってくれていました。（次号に続く）



「教師信徒研修会」講話

講題 「金光教の信心のすばらしさ」

講師 山田信二師

(神奈川山梨教会連合会長・横浜西教会長)

(前号の続き)

\*イヤな過去も変えられる

「信心すれば、目に見えるおかげより目に見えぬおかげが多い。知ったおかげより知らぬおかげが多いぞ。後で考えて、あれもおかげであった、これもおかげであったというところがわかるようになる。そうなれば本当の信者じゃ。」

(御理解五三)

最近聞かせてもらった話であるが、現役で仕事をされている方で、怪我をして手術して、二か月以上仕事を休んで療養した方である。仕事ができない間、私は信心の学び直しをさせて頂こうと思われて、療養の期間過ごしていたら、「なんと私は至らないことだったか」と。「私はなんと自分勝手な人間で、自分勝手な生き方をして来たことか、良く分かりました」と言われた。怪我をしたおかげで、大切なことを学ぶことができましたと、よく気づかれたと思う。すばらしいことである。

四、希望を持って生きられる

\*神様は長い目で考えてくださっている

「神は人間を救い助けてやろうと思っておられ、このほかに何もないのであるから、人の

身の上につけて無駄事はなされない。信心してるとよい。みな末のおかげになる。」

(天地は語る二八)

起こってきたことが辛いこと、嫌なこと、何で神様はこんな酷い目にあわすのか、と言う人もいるが、神様は助けて下さることしか考えておられないということ。おかげにして下さるおつもりがあるのだから、そのことを信じて信心していきさえすれば、末のおかげになるということである。

\*神様にお任せすればおかげになる

「人間であるから、生きている間は先々のことを考えもしようし、心配の尽きる時はあるまいが、それがみなおかげになれば、心配はあるまい。心配は、信心すればみなおかげになる。心配は体に毒、神に無礼である。心配する心を神に預けて信心する心になれよ。おかげになる」

(天地は語る二四五)

心配する時は神様にお願ひして、お任せして、お預けして信心をしていくということ、そういう姿勢がおかげになっていく。

\*信心以上のおかけをくださっている

「あほうを出せいと言うたら親を出したという話があるが、親というものは子供にかけては、かわいいに余ってばかなものじゃ。世間の笑いものになっておつても知らずにおる。神様じゃというても、よくもあのような者におかけをやられることじゃ、あのような者が信心したと

て、何で神様が受けられるのかと思われぬ者にも、おかけをやっておられるのは、それは親じゃから、氏子がかわゆうてならぬからぞ。神様のありがたいことを、そこからよう合点せねばならぬ。」(尋求教語録一〇二)

私は信心しているから、他の人とは違うとか、私の信心はあの人の信心とは違うとか、気になりがちであるが、でも神様の眼から見たら、五十歩百歩なのである。

神様は親ばかだから、私達のがかわいくて仕方がないから、私達が足りないのに、おかけを下さるのである。

おわりに \*信心の目標\*

「信心しておかけを受けて、難儀な人を助ける身にならせてもらうがよい。神の心になって、受けたおかけを人に話して真の道を伝えるのが、神へのお礼である。それが神のお喜びとなる。信心すると言っても、これまではみな神を使うばかりで、神に使われることを知らない。天地金乃神様は人を使いとなさる。神に使われることを楽しみに信心せよ。」

(天地は語る三六八)

信心を伝えるということでも、自分でやろうと思うからできない。私には力がありませんから、神様のお力でどうぞさせて下さい。という気持ちでお願いしたら、お役に立たせ頂ける。しっかり信心して神様のお役に立つことを心がけていきたい。(報告 南清孝)

## 「女性のつどい」開催報告

七月十四日十三時半、藤沢教会で、女性のつどいが開催された。今回は藤沢教会の3人の女性信徒の皆さんに「私の信心」を聞かせて頂いた。定刻、山田初子さんの司会で、開会宣言。

ご祈念のあと、高橋健雄教会長のご挨拶を頂いた。「おかげの中には気づかないおかげも多い。つい見過ごしてしまっただけのお礼がおろそかになると、おかげが頂けなくなる。日々頂いているおかげに気づき、お礼を忘れないこと。奇跡的なおかげもよく耳にし、目にする処である。今日の集会からよく学び感じ取って頂いて、一層大きなおかげを頂いてほしい。」

最初に、横井美代子さん(73歳)。新潟県三条市の出身、祖父母の代からの信心で、藤沢教会にお参りして三十数年。子供時代はお参りを欠かさなかったが、高校生になってお参りしなくなった。結婚後、二人の娘を授かり、下の子に湿疹がで、皮膚科に通ったが、教会に近かったため、待ち時間を利用して、参拝した。十年のブランクがあるのに、先生は昨日の続きのように接して下さったが、それは母親が事細かに私のことをお届けしてくれていたから。夫の両親と同居していたが、父親の商売が破綻し、借金が出来た。先生に「一心に願うというのは、何をしてもどこに

居ても願うこと」と教えて頂いた。父の姉が借金の肩代わりをしてくれることになり、願い抜いておかげを頂くことを実感した。その頃、三人目の子供を妊娠し、夫や両親は産むことに猛反対、教会では「おかげ頂いて産ませて頂きましょう」と言われる。いろいろあったが、実家に帰って出産した。男の子だった。夫も両親も喜んでくれて、先生のおっしゃる「神様に産ませて頂く」を実感した。こうして、浪越教会で信心の基礎を作った。転勤で藤沢市に住むことになり、以来藤沢教会に参拝、数々のおかげを頂いている。

続いて、小林佳代子さん(51歳)。大分県の出身で、祖父母の代からの信心。子供の時は、日曜日も教会に出入りし、洒掃や吉備舞の御用もしていたが、北九州市の大学に入り、教会に参拝しなくてもいい生活、日曜日に遊べる生活を知って、青春を楽しんだ。歯科医師と結婚し、開業することになった時、富士見教会に参拝、お届した。その後は手紙でお取次を頂き、その都度丁寧なお返事を頂き、自分では信心をしている気持ちでいた。



十年前の3月、おなかが痛くなり受診したら、卵巣が腫れている、癌の可能性もある。検査入院が必要と言われた。高2と小5の子供がいて、すぐ入院というわけにもいかず、下の子を連れて、実家に帰ってきた。ところがその夜、激痛に襲われ、救急車で運ばれたら、卵巣破裂。緊急手術を受けた。手術後、ベッドの上で、必死にお願いした。「どうぞ癌でありませぬように、三月末にある長男の野球の試合を応援出来ますように、元気になれたらきつと教会にお参りします」。

3日後、組織検査に廻された卵巣は癌でないと判明、長男の野球の試合も元気に観戦できた。神様にお約束した通り、藤沢教会に参拝している。

長男は歯科医師になったが、次男は自閉症で、癩癩を起すこともあった。職業訓練所に入所、現在は製造関係の企業で働くというおかげを頂いている。

最後は、吉田文枝さん。佐賀県の出身で、横浜市磯子区に在住、十五年前から藤沢教会に参拝している。祖父母の代からの信心で、金光教でおかげを頂いたからこそ今があると聞かされて育った。

息子が藤沢市の学校に入学して、母は横浜や藤沢の教会を調べてくれたが、お参りはしていなかった。息子が軽い登校拒否になり、学校に行ったり行かなかったり。夫婦仲もぎくしゃくしてくるし、とうとうお参

りして、先生に話を聴いて頂いた。  
「心配は神様にあずけて、帰りましょ  
う」という言葉に、教会は実家のような処  
だと思った。

うちには猫が3匹いるが、娘の飼い猫  
が死んだ。火葬にしてお骨にしたあと、こ  
のままにしておくのは忍びなく、娘と相  
談、教会に電話した。葬儀を仕えて下さる  
という。教会に着いたら、8時を過ぎてい  
たが、先生はお装束をつけ、祭詞を用意し  
て待っていて下さった。私も感動したが、  
娘はもつと喜んだ。この経験で娘は信心継  
承ができたのではないかと思っている。楽  
しそうに教会に行き、楽しそうに帰る、こ  
れは家族に信心を伝える基本だと考えてい  
る。

その後、高橋先生から、補足説明があ  
った。「産むことを反対された横井さん  
のご長男は、今、JALの機長をしておられ  
る。また小林さんのご長男は、歯科医でな  
く普通の医者になりたいと医学部も受験し  
た。ところが、偏差値的に見て当然受かる  
であろう医学部に落ち、最後に難しいと言  
われる大阪大学の歯学部から合格通知が来  
た。これはもう神様のお計らいとしか思え  
ない。また飼い猫のご葬儀のことは、ペッ  
トは家族なのだから、普通にご葬儀を仕え  
るのは当然のこと。金光教のご葬儀は、丁  
寧で心を込めて大切にお仕えするとよく言  
われる。祖父母や両親が在世中はお参りし

なかったお子さんが、葬儀後お参りされる  
とか、葬儀に出た親戚の方がその後お参り  
されるような例が多い。ぜひ教徒になって  
金光教で葬儀を仕えて頂きたい。葬儀は大  
切な布教の場であると思う」。

休憩ののち、参加者全員に自己紹介と  
感想を述べて頂いたが、「感動した」とい  
う言葉が多く聞かれた。山口和賀雄信徒部  
長の挨拶、ご祈念、写真撮影をしてすべ  
ての予定を終了、十六時半解散した。詳しく  
は連合会のHPをご覧下さい。

発表者お三方とも一時、教会から離れ  
ている。神様からのお導きとしか思えない  
出来事を経験して、教会に戻ってこられて  
いるが、親御さんも努力されているように  
思った。離れている間も、細やかに子供の  
様子をお届けしたり、教会の場所を調べて  
伝えていたりなど、信心継承には親の努力が  
必要だと感じた。また教徒になること、金  
光教で葬儀を仕えることの大切さも実感さ  
せて頂いた。暑い中準備をして下さった藤  
沢教会の皆様には厚くお礼申し上げます。参  
加者は9教会から三十五名。(報告・大塚)



## 2024 (令和6) 年度 生神金光大神大祭日程

教会名	日 程
甲府教会	10月20日(日) 13時30分
小田原教会	10月27日(日) 14時
登戸教会	10月27日(日) 13時30分
横浜西教会	10月27日(日) 13時30分
大明教会	10月27日(日) 13時30分
南甲府教会	10月28日(月) 11時
子安教会	11月2日(日) 13時30分
横須賀教会	11月3日(祝) 13時30分
生麦教会	11月3日(祝) 11時
丸子教会	11月3日(祝) 11時
相模原教会	11月3日(祝) 14時
平塚教会	11月4日(休・月) 13時
武蔵小杉教会	11月10日(日) 11時
開教50年祭	
鎌倉稲村ガ崎教会	11月11日(月) 13時
野毛教会	11月16日(土) 13時30分
神奈川教会	11月24日(日) 11時30分
藤沢教会	11月28日(木) 11時